



「心に寄り添う僧侶の在り方」吉村昇洋師

広報誌『SOUSEI』記事のご紹介

広報委員長 菅 悠生すが ゆうせい

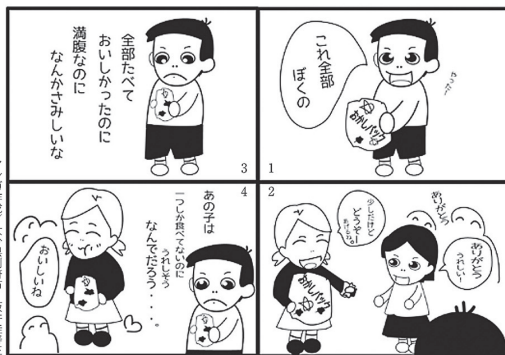
全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）では、年に四回（毎号約一万二千部）広報誌『SOUSEI』を発行しております。全曹青の活動はもちろん、今期は全国の加盟曹青会の活動紹介も連載。また、毎号特集記事を掲載し、青年僧侶の日々の活動に役立つ情報をお届けしております。今回はそんな広報誌の記事から、悩める人に対する僧侶の「心の寄り添い」の参考となる記事をご紹介します。

●一九二号より全二回連載 「心に寄り添う僧侶の在り方」

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、うつ状態や精神的不調を抱える人が増加し、昨年には「コロナうつ」という言葉も生まれました。そんな社会状況を背景に、本連載は心理臨床の国家資格である公認心理師として、精神科専門の病院にも勤務する吉村昇洋師にお話を伺いました。

心理学で読み解く お経の話

心理学的視点から読み解くお経の言葉。今号では貪らない心である「布施」、他者に寄り添う心である「同事」について考えました。



マンガ作成／大宮麻知希市 板井佳希

心が豊かになる「布施」のヒミツ

「心理学で読み解くお経の話」誌面より

全二回の連載では、心理学と禅の親和性についてや、私たち僧侶が参考にできる寄り添いの実践方法を伺いました。実際に傾聴の場面に立つ僧侶の立場を想定し、誰しも抱く疑問に向き合う内容となっております。悩み多き現代で活動する僧侶にとって、広く参考となる情報をお届けできたのではないかと思います。

●第一八三号より全三回連載 「心理学で読み解くお経の話」

こちらの連載では、法事等で広く親しまれている『修証義』の中から「四撰法」について、お二人の心理カウンセラーの方に寄稿いただきました。子どもたちにも分かりやすく伝えることをテーマに、実例を交えながら四コマ漫画の挿絵と共に掲載しております。

何かを伝えたい場合、相手が大人か子どもかでは、選ぶ言葉や話し方も変わってきます。この連載では子どもたちが想像しやすいように、学校生活や家族との出来事を実例に上げております。実際に子どもたちの前に立つ場面で、一助になればと思います。

●第一九五号特集 「信仰というケアのかたち」



広報誌『SOUSEI』では、今回ご紹介した記事以外にも、毎号多種多様な記事を掲載しております。バックナンバーは公式ホームページ「般若」に公開しておりますので、是非ご一読ください。



「信仰というケアのかたち」オンライン取材の様子

先月十一月に発行した第一九五号では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け始めてから一年以上にわたり、悩める方へ寄り添うケア活動に従事して来られた宗教者の方々がたについて特集いたしました。お話を伺ったお二人は、呼吸器内科の医師であり金光教の教師でもある原信太郎^{はらしんたろう}と、寺院外の活動を通して悩みに寄り添う曹洞宗僧侶の竹村信彦^{たけむらしんげん}です。

立場や活動も全く異なるかのように思われるお二人ですが、ケアという視点からお話を伺う中で、ケアを行う人間の「セルフケア」という共通の話題が上がりました。心の寄り添いや傾聴の必要性が説かれる昨今、その寄り添い手となる宗教者も、自身の心の疲弊と向き合う必要があります。是非参考にしていただければと思います。



●執筆者プロフィール
 広報委員長 菅 悠生

広島県曹洞宗青年会所属
 第二十二期 広報委員
 第二十三期 広報副委員長